（別紙４（１））

１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390900074		
法人名	株式会社　いわい		
事業所名	グループホームにこにこひがしやま　ユニット名（やまゆり）		
所在地	岩手県一関市東山町長坂字北磐井里１８７番地３		
自己評価作成日	平成22年6月8日	評価結果市町村受理日	平成22年9月7日（火）

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900074&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	財団法人岩手県長寿社会振興財団
所在地	盛岡市本町通3丁目19番1号
訪問調査日	平成22年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・今という瞬間を大切にしています。
・地域との関りを大切にし、安心して支えあって暮らせる地域づくりに力を入れています。
・あたり前の生活を特別なことに変えるのではなく、あたり前のままで暮らせるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

若い職員が多く、はつらつさが感じられる事業所である。職員の養成に力を入れており、経験の少ない職員を積極的に外部研修に出席させている。外部研修に参加した職員が講師となり、他の職員に対して伝達研修が実施されている。また、職員全員がホームの運営に関わる委員会に所属しており、職員の意見が委員会を通じて吸い上げられるシステムがつくられているが、通常の業務上でも意見を出しやすい環境がつくられている。地域との関わりは良好であり、周辺の住民との協力関係が築かれている。災害対策として地域住民による「防災協力隊」が結成され、災害訓練の際にはホームの利用者と職員が一緒に訓練に参加している。また、幼稚園からの訪問があるほか、地域行事や小学校の運動会、学習発表会の見学が行われている。

終末期ケアの指針が作成されており過去に実績がある。関係者と連絡をとり家族の同意をいただき看取られた。今後も希望者があれば対応する予定である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関、スタッフルームに掲げ毎日申し送り時唱和している。	職員全員で話し合って作られた理念は、玄関やスタッフルームに掲示されている。年度初めには職員全員で話し合い、方針を決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の下校時の見守隊を地域の一員として参加している他、小学校の行事を見学に行ったりと日常的に交流している。	地区の老人クラブが実施している「見守り隊」に、利用者と職員が一緒に参加している。小学生の下校時間に週3回、15～16時の間、ジャンパーを着用して声がけを行っている。幼稚園児や小学生との交流が行われ、地域の祭りにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月１回老人クラブの定例会に出席し認知症の理解を求めている。また、地域で支えあえる環境であるよう理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では活発に意見が出され、その内容はミーティング等で職員間でも検討され、質の向上につなげている。	2ヶ月に1度実施しており、消防署職員、区長、市職員、老人クラブ会長、利用者、利用者家族が参加し、ホームの運営に対する意見が活発に出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に連絡を取り合いながら、入居者様が安心して生活できるよう連携をとっている。	広域行政組合や地域包括支援センター職員と連絡をとるようにしており利用者の暮らしぶりを伝えている。東山支所の福祉課には広報紙を持参し職員と直にやり取りをしている。定期的に市の移動図書館が来て本の貸し出しが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部、外部研修に参加し職員全員が理解している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の実例はなく、玄関の鍵は夜間以外はかけていない。岩手県身体拘束廃止推進員養成研修に参加している。参加者は、事業所内で他の職員に対して伝達研修を行っている。出入り口にセンサーが設置されており、ブザー音が鳴るが気にならない程度の音である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に参加し職員全員が理解している。声掛けにも注意をしケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修に参加し職員全員が理解している。ユニット内には現在制度利用者はいないが、必要性に応じ支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安が1つでも消え、安心して頂けるよう十分な説明を行っている。理解、納得をして頂いた上で契約の締結や解約を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて意見や思い等をあげてもらっている。また、アンケート等も定期的に行い、意見を運営に反映させている。	年に1回、アンケートを行い、運営推進会議で結果を公表し、対策を考えている。また、家族に対しても報告している。家族からは普段のやり取りでも意見が出されており、話しやすい環境である。年に3回、イベントを兼ねて家族会が開かれており、3分の2程度の参加がある。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションでも意見や提案を聞ける関係性は図れている。ミーティングでも活発に意見が出され運営に反映させている。	消防、広報、教育、行事、環境、食材の各委員会に職員が配属し、出された意見は職員会議で発表されるシステムになっており、職員の意見が出しやすい環境がつくられている。日常のやりとりでも意見を出すことができる。職員から不満を感じられる発言はなかった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々が目標を持ち、達成できるよう環境づくりをしている。定期的に評価をし常に向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に合わせた内部研修を行い、知識を高められるような環境づくりをしている。また、資格取得にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会や、にこにこ学級を通じてネットワークづくりをし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みがあった時点で本人と家族に面談を行っている。その時抱えている思いに耳を傾け、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みのあった時点から家族の抱えている思いに耳を傾けている。1つでも多くの不安を消せるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや関係者と連携をとりながら、その人に今必要なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な畑の事や、長年行ってきた季節の習わしなど教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランを作成する前に家族の思いを確認し、職員の思いも伝え1人の人を思う気持ちを共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問を実施している他、行事には家族へも案内を出し参加して頂いている。行事は恒例となり家族会とも協力して家族の参加しやすい時間と空間を立案している。	「ふるさと訪問」を行っている。実家や肉親の家、連絡がとれれば友人宅などを訪ねる機会を作っている。状況に応じて個々に対応しているが、外出可能な方々でドライブを兼ねて出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の苦手な部分をお互いがカバーしあえるような関係性が築けている。スタッフ仲介により、皆が1つの輪に入る事ができている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人に会いに行ったりしている。家族とも連絡を取りながら相談にのっている。どこにいても、安心して暮らせるよう支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関りの中で思いを把握している。常に本人本位で検討し、支援につなげている。	普段の生活の中で、利用者との会話から6つの項目に分けて言葉をまとめることにより、利用者の意向を探ろうとされている。今後自身がどうなるのか不安を訴える方とは職員が交代で交換日記をつけることにより、精神的な安定が図られていた。	症状が進み、自分をうまく表現することのできない利用者の意向を理解することは困難なことである。現状でも十分な対応がなされているが、更に意向を把握する技術を高めて利用者の方々の支えとなっていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで歩いてきた１人１人の道のりを1つでも多く知ろうとし、その人の本来の姿で生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや表情、関りの中から心身状態の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から思いを伺いカンファレンスを通じ現状に合わせたケアプランを作成している。	センター方式を採用している。利用者の日常を事細かに記録し、家族の協力をいただいて利用者の意向を把握のうえ職員で検討を行っている。ケアプランは毎月見直しが行われ、問題があればその都度見直される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や現状の分かる記録を残せるよう心がけている。その記録をもとに、ケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	成年後見制度の活用など個々のニーズに合わせ対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や見守隊への参加で地域の中で力を発揮し生き生きとした表情がみられている。地域の中で役割を持ち生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医が主治医となっている。日々の生活状況を手紙に記し適切な治療を受けられるよう支援している。	全員が居住していた地域の主治医を利用している。原則として家族が送迎を行っているが、緊急時等、状況に応じて職員が対応する場合がある。主治医とは利用者の状況について手紙でやりとりが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気付きを看護師に伝え、介護との連携はとれている。気をつけなければいけない事や、個々の状態等看護師からも全職員に伝わっていり適切な介護、医療が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者や家族と情報交換を行い早期に退院できるよう、また安心して治療できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その人らしさを一番に考えた上で方針を定め関係者全員で共有している。	過去に終末期ケアを経験しており、今後も対応することとしている。終末期に対する指針が作成されており、関係者と連絡、連携をとりながら、家族の了承をいただいた上で行うことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは全職員が周知している。定期的にAEDや応急手当等の研修を実施し実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害訓練を実施している。他、地域の防災協力隊を結成し協力体制を築いている。	毎月事業所内で様々な状況を想定して訓練を実施されている。地域の方々の協力をいただいて防災協力隊が結成され、一緒に訓練を行っている。直近では消防署指導の下、夜間を想定した訓練が実施されている。緊急時に備えて2日分の食料、水が確保されている。10月にはスプリンクラーを設置する予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人の人として、誇りやプライバシーを傷つけないよう対応している。マニュアルにも見直しをかけ、全職員が振り返りをし常に言葉掛け等にも気をつけている。	プライバシーの保護について勉強会を行っており、利用者の尊厳の維持を意識している。マニュアルが用意されており、言葉遣いに気をつけている。入浴に際しての同性介助、食べこぼしや失禁の処理等、他人の目に触れないようにさりげなく処理することを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の色々な場面で自己決定できるような支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や、1人1人のペースを大切にし希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やマニキュアをし、おしゃれを楽しんでいる。常に本人の希望を聞いて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食一緒に食事準備や片付けをしている。メニューについて話し合ったりし、個々に合わせて支援している。	食事つくりは利用者にとって楽しみの一つになっている。性別を問わず全員が食事つくりに参加しており、半分以上の方が包丁を使っている。キッチンは火を使わず調理ができる。糖尿食対応のためメニューは職員が中心になって作成しているが、事前に希望を出せば利用者の希望を取り入れることもできる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養や水分が維持できるよう工夫している。個々に合わせおかゆ、キザミ、糖尿食等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣化されている。磨き残しのある人には介助をし、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員がトイレでの排泄ができるよう支援している。個々の状況に応じ、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を作り、個々の排泄パターンが確立されている。基本的には、オムツを使わずに、利用者の状況を察知し、トイレ誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は原因や影響を理解しており、野菜多めの食事や起床時の冷水等個々に合わせた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴希望を聞きながら支援している。同性スタッフ介助希望も取り入れている。	事前に個々の入浴の希望をとっており希望にそって対応されている。毎朝及び入浴前にバイタルチェックが行われ、医師による入浴判定基準を基に入浴の判断が行われている。入浴を拒否される方もいるが声がけを繰り返し、入浴を促している。状況によっては清拭、足浴だけの場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時々の状況に合わせ支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬や副作用等理解したうえで、日々の症状の変化を見逃さないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	１人１人が役割を持ちハリのある生活を送れるよう支援している。また、読書等で気分転換を図っている人もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の喫茶店にお茶を飲みに行ったり、地域行事に参加できるよう支援している。	家族の墓参りや買い物、実家に出かけている。買い物に出かけるのも楽しみの一つであり、利用者個人で様々なものを買っている。近所を散歩したり、畑を見に行くこともある。個人で出かけることもあるが、その際は、職員が後ろから付き添っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の金銭管理能力に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚等大切な人に電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭でとれた花を飾ったりし、季節感を感じながら居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者と職員が共同で季節感を感じさせる花や飾り物を部屋に置いたりしている。畳の小上がりやソファーが何箇所かに用意されており、くつろげる空間がつくられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置など工夫し、その時の気分で過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人が居心地良く安心して過ごせるよう使い慣れた物や、いつもそばにあった物を持ってきている。	居室にはベッドが設置されているが希望があれば畳を敷き、布団を敷くことが可能である。居室には、仏壇、神棚や位牌、家族の写真等、利用者の大切なものが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	戸惑いなく生活できるよう、トイレや居室が分かるように工夫している。		